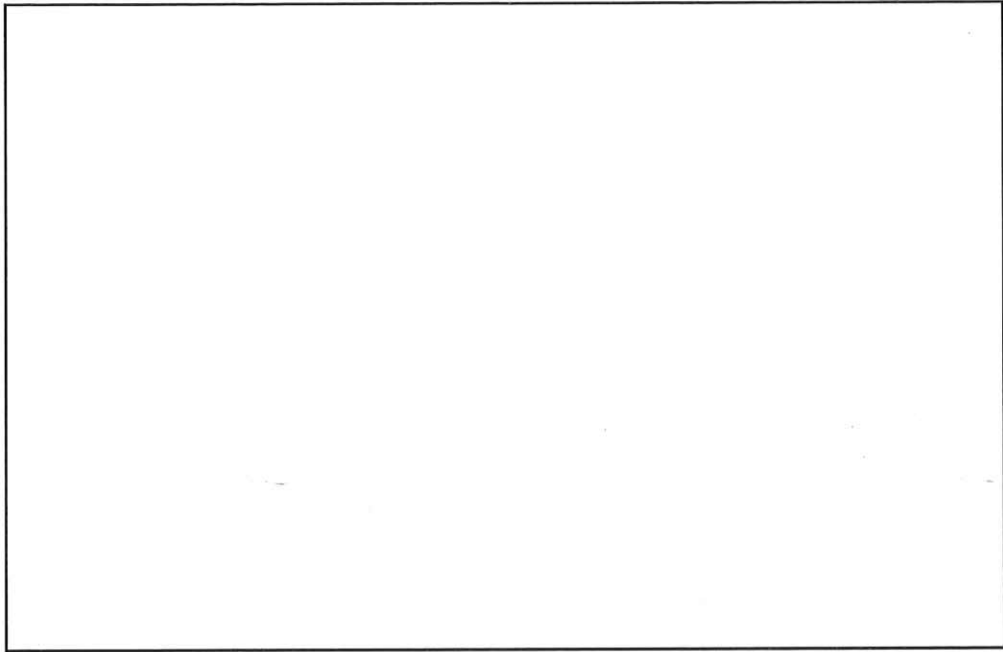


小論文 A（文章読解型）

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。



(『河北新報』社説 2025／5／1)

問 1 本文の内容を 200 字程度で要約しなさい。

問 2 もしバリアフリー化が進まない状況で避難生活を送ることになった場合、
どのような問題が生じるかについて、あなたの考えを 600 字程度で述べな
さい。

小論文 A (文章読解型)

【出題意図】

問 1 文章を読んで、書かれている内容を適切にまとめる能力をみる。

問 2 問われていることを理解し、自分の考えを明解に適切な日本語で表現する能力をみる。

【解答例】

問 1

災害時の避難所となる東北の公立小中学校で、多機能トイレ等のバリアフリー化が国の目標に反して遅れている。国の補助が引き上げられたにもかかわらず、このような状況になっている背景として、自治体の財政難等がある。災害関連死のリスクが際立つ障害者の命を脅かす深刻な問題であり、合理的配慮を欠く差別に繋がりがねない。国と自治体は、この現状が災害弱者の尊厳をめぐる問題だという意識を持ち、早急に施設改修を進めるべきだ。(202 字)

問 2

バリアフリー化が進んでいない避難所は、障害のある人だけでなく、周りの人々にも影響を与え、避難所全体の雰囲気を悪くしてしまうという問題があるのではないだろうか。

まず、障害のある当事者は、生活のすべてが困難になる。段差があれば一人で動けず、トイレも自由に使えない。これは単に不便だけでなく、感染症になったり、誰にも知られず孤立したりする危険に繋がってしまう。しかし問題は、個人の困難に留まらない。次に大変なのは介助をする家族やボランティアの人たちである。何度も人を抱えたり、プライバシーのない場所でトイレの手伝いをしたりすることは、体力的にも精神的にも大きな負担になるだろう。介助する側が疲れ果ててしまえば、結局は当事者の安全も守れなくなってしまうと考える。さらに、こうした状況は、他の避難者との関係も悪化させる。例えば、通路を塞いでしまったり、トイレを長く使ったりすることで、「迷惑だ」と感じる人が出てくるかもしれない。助け合うべき場所なのに、お互いに不満が溜まり、避難所にいること自体が辛くなってしまう。障害のある人は、目に見える壁だけでなく、周りの人からの目に見えない壁にも苦しむことになる。

このように、たったひとつのバリアでも、当事者から介助者、そして避難所全体へと、悪い影響を次々に広げていく。バリアフリー化は、特定の人を助けるためだけのものではない。災害時に皆が安心して助け合える場所を作るために、欠かせないものなのだと思う。(618 字)